

「ぼく・わたし かがやいています」ハートフルな社会の実現を目指して
～ハートフルシンポジウム20年の歩み～

熊本県立荒尾支援学校



この言葉は、平成14年度に本校生徒によって考えられた。以来、荒尾支援学校のキャッチフレーズとして親しまれてきた。今年度からはスクールアイデンティティとして掲げ、子どもたちのより輝く姿を目指している。

1 ハートフルシンポジウムとは

ハートフルシンポジウムは本校が地域支援の核のひとつとして位置づける行事である。毎年国の福祉・労働施策の流れや変化を敏感に捉えてメインテーマを定め、本校関係者のみならず、地域（有明圏域）に向け広く情報発信を行うというコンセプトのもと発展継続し、今年で20年目を迎えた。

これまで、卒業生保護者、福祉施設長、卒業生を雇用する会社社長、同窓会会長、PTA会長、学校支援ボランティア組織（ボランティア共生大学）等々、その時々テーマに沿ったシンポジストが、障がいのある児童生徒の将来に向け公開意見討論等を行っている。

参加者は毎年200名以上を数え、地域の方、保護者、近隣の学校、福祉・医療関係等、多くの方が立場を超えて参加いただいている。

近年は右図のように、午前中にオープンスクールを行い、地域の方や本校への転入学を検討している方に向けて、荒尾支援学校の児童生徒の生活を実際に見ていただく。そして作業所、事業所などに協力していただき、ポスターセッション（今年度から「就学・福祉・就労フェア」）も行い、障がいのある人がどのような活動、仕事をしているのか、どんなものを作っているのか紹介していただいている。障がいのある児童生徒がどんなことに取り組み、頑張っているのか知ってもらうことで、さらに理解啓発を促すことを目的としている。

平成29年6月27日(火)		
午前	オープンスクール ■授業公開	就学・福祉・就労フェア ■就労支援・福祉サービス事業所等によるポスター発表 (11事業所)
	午後	ハートフルシンポジウム 「一人一人が輝く共生社会に向かって」 ■高校生のインターンシップ学習発表 ■福祉に関する講演

2 第1回ハートフルシンポジウムに込められた思い

「この子どもにとってよりよい生活（社会）とは～すべての人が幸福に暮らせるハートフルな社会を目指して～」

ハートフルシンポジウムは、平成10年、河津巖校長（当時※第8代）のリーダーシップのもと誕生した。第20回を迎えた今年度、河津元校長に当時の思いを伺う機会を得た。

河津元校長は当時、就職した卒業生が1ヶ月で離職するという現状にショックを受け、養護学校（当時）の中では当たり前に行われている子どもと教師とのかかわりのようなハートフルな心の文化が、社会の中では一般化されておらず、文化として定着していない状況（概念）を砕く必要があると強く感じられたようだ。

今でこそよく耳にする合理的配慮だが、当時は、社会に出た時にそれが「当たり前」でない現状があった。社会が障がいのある人たちに対し、『してあげる』という考えではなく、お互いに支え合う『対等な存在』という考えになってほしいという強い願いも込められている。『対等な存在』として互いに認め合うことができるならば、合理的配慮もみんな

なが「当たり前」のこととして捉えるようになる。

そこで河津元校長は、すべての人々に対し、障がい児・者の教育や福祉についての理解啓発を進め、障がいのある人々が安心して生活できるハートフルな社会の実現を目指すことを目的に、「この子どもにとってよりよい生活（社会）とは～すべての人が幸福に暮らせるハートフルな社会を目指して～」というテーマを掲げ、第1回ハートフルシンポジウムは開催された。

3 第20回を迎えて

「一人一人が輝く共生社会に向かって」

今年度20回目を迎えるに当たり、ハートフルシンポジウムのこれまでの歩みをまとめ、河津元校長に巻頭言を頂く記念パンフレットを作成した。

20年間のあゆみを振り返ると、子どもたちの「将来・未来」を考えるテーマが多いことがわかる。つまりハートフルシンポジウムには、障がいのある子どもたちの「将来・未来」をより良いものにする願いが、脈々と受け継がれてきたことを強く感じる。

20回目のハートフルシンポジウムのテーマは「一人一人が輝く共生社会に向かって」である。特別支援教育でよく言われる共生社会。日々の児童生徒の「将来・未来」のため日々教師、保護者、関係機関は工夫し指導支援にあたっている。今後きっと共生社会に近づいていくだろうが、その時に障がいのある人々の一人一人が夢や希望をもち、自分の役割、やりがいを感じながら輝いていてほしい。そう思いを込めて今年度のテーマを設定した。

今年度のハートフルシンポジウムも二部構成で行った。一部では本校高等部生徒が進路実現へ向けて輝いている姿を発表した。二部では社会福祉法人菊愛会理事長である最上太一郎氏、熊本県北部障害者就業・生活支援センターがまだすの主任就業支援ワーカーである川上美幸氏を講師に、平成30年度に大きな転換点を迎えている福祉制度の最新情報について御講演いただいた。講演では事前に保護者にアンケートを取り、ニーズの多かった意見についても取り上げてくださった。「生徒自身の発表により、実際の状況が分かりやすかった」「障がいのあるお子さん、親の就職時の支援について学べた」など参加者からは好意的な意見を多くいただくことができた。



4 これからのハートフルシンポジウム「不易と流行」

河津元校長にお話を伺った際、ハートフルシンポジウムでは以前、生徒もシンポジウム企画委員として参加し、一緒にハートフルシンポジウムをつくりあげていたということがわかった。

また、第1回目の司会を担った保護者（当時PTA役員）が、現在は福祉サービス事業者として立場を変え、再びシンポジウムに参画していただくなど、教育を取り巻く地域や時代の変遷も感じている。

20年目の節目を迎え、これまでの歩みを整理することにより「不易」と「流行」の両視点で点検評価を加えることができたことは大変有意義であった。これからも先輩方の思いを引き継ぎ、障がいのある人々が安心して生活できるハートフルな社会の実現を目指し、障がい当事者である児童生徒を中心に据え、彼らを取り巻くたくさんの人々の、垣根を越え巻き込みながら、シンポジウムを更に発展充実させていきたいと考えている。